



# クラウドコストのデータを**Insight**でレポート OnCommand Insight

NetApp  
September 03, 2024

# 目次

クラウドコストのデータをInsightでレポート	1
作業を開始する前に	1
このタスクについて	1
手順	1
ロールを昇格します	1
アップデートセットをインストールします	2
ServiceNow統合-ユーザを設定します	2
Pythonとライブラリをインストールします	3
Pythonミドルウェアをセットアップします	4
コネクタを同期しています	5
同期を毎日実行するようスケジュール設定しています	5

# クラウドコストのデータをInsightでレポート

Insightで収集された月単位のクラウドコストデータはデータウェアハウスに送信され、Cloud Costデータマートでレポートに使用できます。

## 作業を開始する前に

AWSからクラウドコストデータを収集するようにデータソースを設定しておく必要があります。課金対象の各ユーザ/アカウントには、個別のデータソースが必要です。

Insightでデータの収集を開始するまでに少なくとも36時間かかります。

そのあとに少なくとも1回はETLを実行して、データをデータウェアハウスに送信します。

## このタスクについて

データが収集されてData Warehouseに送信されたら、事前設定された任意のレポートでデータを表示したり、カスタムレポートを作成したりできます。Insightのクラウドコストデータマートにデータが保存されません。

事前設定されたレポートのいずれかでクラウドコストデータを表示するには、次の手順を実行します。

## 手順

1. 次のいずれかの方法でInsight Reportingを開きます。
  - [Reporting Portal]アイコンをクリックします  InsightサーバのWeb UIまたはData Warehouse UIで使用します。
  - 次のURLを入力して、Reportingを直接起動します。 [https://<dw\\_server\\_name>:9300/p2pd/servlet/dispatch](https://<dw_server_name>:9300/p2pd/servlet/dispatch) または [https://<dw\\_server\\_name>:9300/bi](https://<dw_server_name>:9300/bi) (7.3.3 and later)
2. Reportingにログインしたら、**[Public Folders]\***をクリックし、**[Cloud Cost]\***を選択します。
3. AWS請求データは、\* Cloud Cost フォルダにある利用可能なレポートで表示できます。また、Packages フォルダにある Cloud Cost Datamart \*を使用して独自のカスタムレポートを作成することもできます。

## ロールを昇格します

Insightと統合するには、ServiceNowのロールをsecurity\_adminに昇格する必要があります。

### 手順

1. 管理者権限でServiceNowインスタンスにログインします。
2. ドロップダウンで**[ロールの昇格]\***を選択し、自分のロールをsecurity\_adminに昇格します。[OK] をクリックします。

# アップデートセットをインストールします

ServiceNowとOnCommand Insight の統合の一環として、データを抽出およびロードするための特定のフィールドとテーブルをコネクタに提供するために、事前設定されたデータをServiceNowにロードするアップデートセットをインストールする必要があります。

## 手順

1. 「取得したアップデートセット」を検索して、ServiceNowのリモートアップデートセットテーブルに移動します。
2. [Import Update Set from XML]をクリックします。
3. アップデートセットは、以前にローカルドライブにダウンロードしたPythonコネクタ.zipファイル（この例では、）にあります c:\OCI2SNOW フォルダ）をクリックします \update\_sets サブフォルダ。[Choose File]\*をクリックし、このフォルダの.xmlファイルを選択します。[アップロード]をクリックします。
4. 更新セットがロードされたら、それを開き、\*[更新セットのプレビュー]\*をクリックします。

エラーが検出された場合は、更新セットをコミットする前に修正する必要があります。

5. エラーがない場合は、\*[Commit Update Set]\*をクリックします。

アップデート・セットがコミットされると、\* System Update Sets > Update Sources \*ページに表示されます。

# ServiceNow統合-ユーザを設定します

Insightに接続してデータを同期するには、ServiceNowユーザを設定する必要があります。

## このタスクについて

## 手順

1. ServiceNowでサービスアカウントを作成します。ServiceNowにログインし、\* system security > users and groups > users \*に移動します。[New]\*をクリックします。
2. ユーザ名を入力します。この例では、統合ユーザとして「OCI2SNOW」を使用します。このユーザのパスワードを入力します。



この方法では、ドキュメント全体で「OCI2SNOW」という名前のサービスアカウントユーザを使用します。別のサービスアカウントを使用することもできますが、環境全体で一貫したアカウントであることを確認してください。

3. メニューバーを右クリックし、\*[保存]\*をクリックします。これにより、ロールを追加するためにこのユーザにとどまることができます。
4. [編集]\*をクリックし、このユーザに次のロールを追加します。

- 資産
  - import\_transformer
  - REST\_SERVICE
5. [保存 ( Save ) ]をクリックします。
  6. 同じユーザをOnCommand Insight に追加する必要があります。Administrator権限を持つユーザとしてInsightにログインします。
  7. \* Admin > Setup に移動し、 Users \*タブをクリックします。
  8. ボタンをクリックし、 [ユーザーの追加]\*を選択します。
  9. nameに「OCI2SNOW」と入力します。上記で別のユーザ名を使用した場合は、その名前をここに入力します。上記のServiceNowユーザと同じパスワードを入力します。Eメールフィールドは空白のままにしておかまいません。
  10. このユーザに\* User \*ロールを割り当てます。 [保存 ( Save ) ]をクリックします。

## Pythonとライブラリをインストールします

Pythonは、Insight Serverにインストールすることも、スタンドアロンのホストやVMにインストールすることもできます。

### 手順

1. VMまたはホストに、Python 3.6以降をダウンロードします。
2. カスタムインストールを選択し、次のオプションを選択します。これらは、コネクタスクリプトを適切に操作するために必要なものであるか、または強くお勧めします。
  - すべてのユーザーのランチャーをインストールします
  - パスにPythonを追加します
  - install pip (Pythonが他のパッケージをインストールできるようにする)
  - TK/Tclとアイドルを取り付けます
  - Pythonテストスイートをインストールします
  - すべてのユーザーにPYランチャーをインストールします
  - ファイルをPythonに関連付けます
  - インストールされているアプリケーションのショートカットを作成します
  - 環境変数にPythonを追加します
  - 標準ライブラリを事前コンパイルします
3. Pythonがインストールされたら、Pythonライブラリ「re quests」と「psnow」をインストールします。次のコマンドを実行します。 `python -m pip install requests pysnow`

\*注：\*このコマンドは、プロキシ環境で動作している場合に失敗することがあります。この問題を回避するには、各Pythonライブラリを手動でダウンロードし、インストール要求を1つずつ正しい順序で実行する必要があります。

コマンドはいくつかのファイルをインストールします。

- Pythonライブラリが正しくインストールされていることを確認します。次のいずれかの方法でPythonを起動します。
  - cmdプロンプトを開き、と入力します `python`
  - Windowsの場合は、【スタート】\*を開き、【Python】>【Python-python.exe】<version> \*を選択します
- Pythonプロンプトで、と入力します `modules`

Pythonは、モジュールのリストを収集している間、しばらく待つように要求し、それが表示されます。

## Pythonミドルウェアをセットアップします

Pythonと必要なライブラリがインストールされたので、OnCommand InsightとServiceNowと通信するようにミドルウェアコネクタを設定できます。

### 手順

- コネクタソフトウェアをダウンロードしたホストまたはVMで、管理者としてcmdウィンドウを開き、に変更します `\OCI2SNOW\` フォルダ。
- 空の\* `config.ini` \*ファイルを生成するには、スクリプトを初期化する必要があります。次のコマンドを実行します。 `oci_snow_sync.pyz init`
- テキストエディタで**`config.inifile`**を開き、**[OCI]**セクションで次の変更を行います。
  - 「\* `url` \*」をに設定します `<a href="https://&lt;name.domain&gt;" class="bare">https://&lt;name.domain&gt;</a>`; または `<a href="https://&lt;ip" class="bare">https://&lt;ip</a> address&gt;` (Insightインスタンス)。
  - 作成したInsightユーザ (OCI2SNOWなど) に、\* `user` と `password` \*を設定します。
  - `include_off_vms` を `false` \*に設定します
- [SNOW]**セクションで、次の変更を行います。
  - `Instance` \*をServiceNowインスタンスのFQDNまたはIPアドレスに設定します
  - \*`User`\*および\*`Password`\*をServiceNowサービスアカウントユーザ (OCI2SNOWなど) に設定します。
  - OCI URL の\*フィールドで、URL \*フィールドを「`u_oci_url`」に設定します。このフィールドは、コネクタOCIの更新セットの一部として作成されます。これはお客様の環境で変更できますが、変更する場合は、こことServiceNowで変更する必要があります。このフィールドはそのままにしておくことを推奨します。
  - \*`filter_status`\*フィールドを"`installed, in Stock`"に設定します。ステータスが異なる場合は、新しいレコードをアップロードする前に、すべてのレコードをInsightレコードと一致させるために、ここでステータスを設定する必要があります。ほとんどの場合、このフィールドは変更されません。
  - \*`stale_status`を"`Retired`"に設定します。
- [プロキシ]**セクションは、プロキシサーバーを使用する場合にのみ必要です。このセクションを使用する必要がある場合は、次の設定を確認してください。
  - ; `https = http://<host>:<port>`
  - ; `http = http://<host>:<port>`

- ; include\_oci = True
- ; INCLUDE\_SNOW = True

6. [Log]セクションは、より詳細なデバッグ情報が必要な場合にのみ編集してください。
7. コネクタをテストするには、管理者としてcmdプロンプトを開き、\OCI2SNOWフォルダに移動します。次のコマンドを実行します。 `oci_snow_sync.pyz test`

詳細については、を参照してください logs\ フォルダ。

## コネクタを同期しています

ServiceNow、Insight、およびコネクタを適切に設定したら、コネクタを同期できます。

### 手順

1. cmdプロンプトを開き、\OCI2SNOWフォルダに移動します。
2. 次のコマンドを2回実行します。1回目の同期で項目が更新され、2回目の同期で関係が更新されます。  
`oci_snow_sync.pyz sync`
3. ServiceNowインスタンスのStorage Serverテーブルに値が入力されていることを確認します。ストレージサーバを開き、そのストレージに関連するリソースが表示されていることを確認します。

## 同期を毎日実行するようスケジュール設定しています

Windowsタスクスケジューラを使用して、ServiceNowコネクタを自動的に同期できます。

### このタスクについて

自動同期により、Insightのデータが定期的にServiceNowに移動されます。スケジュールリングには任意の方法を使用できます。次の手順では、Windowsタスクスケジューラを使用して自動同期を実行します。

### 手順

1. Windowsの画面で、[スタート]\*をクリックし、[実行]>[タスクスケジューラ]\*と入力します。
2. [基本タスクの作成...]\*をクリックします
3. 「OCI2SNOW Connector Sync」のようなわかりやすい名前を入力します。タスクの概要 を入力します。「\*次へ\*」をクリックします。
4. タスク\*毎日\*を実行する場合に選択します。「\*次へ\*」をクリックします。
5. タスクを実行する時刻を選択します。「\*次へ\*」をクリックします。
6. アクションで、\*プログラムの開始\*を選択します。「\*次へ\*」をクリックします。
7. [プログラム/スクリプト]\*フィールドにと入力します `C:\OCI2SNOW\oci_snow_sync.pyz`。 [\*Arguments]\*フィールドにと入力します `sync`。[開始場所 (Start in \*)]フィールドにと入力します `C:\OCI2SNOW`。[次へ]\*をクリックします。

8. 概要の詳細を確認し、\*[完了]\*をクリックします。

これで、同期が毎日実行されるようにスケジュールされました。



## 著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。